

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201546		
法人名	MS5有限会社		
事業所名	グループホーム スローライフ大谷（１階）		
所在地	静岡県静岡市駿河区大谷３－１２－４		
自己評価作成日	平成31年3月13日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201546-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駿河湾に近い立地である。 「笑いの絶えない楽しい我が家」を理念に掲げ、家庭的で温かいホーム作りを心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が子どもを連れてくる日もあり、職員にも心の余裕がみられます。職員がそのような状態なので利用者也素になって自然体と成り、「笑いの絶えない我が家」の実現が叶っています。食事介助をしながらも「春の甲子園はじまったねえ」「田舎は〇〇だったね」と本人の興味が湧く話を投げかけ、「なるべく楽しく食事を」と努めている様子も見られ、どの職員も介助や作業をしつつも小さな変化に気づいて声をかけ、場合によっては近くまでいって確認して安心の姿勢です。5人の子を持つママも産休明けで勤務が再開しており、子どもに何かあったときは「いいよ、代わるから」と気安く替わってくれる同僚ばかりで、チームワークが抜群です。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑いの絶えない楽しい我が家を理念とし、地域密着をプラスしたいが、なかなか思惑どおりにはならない。	女性職員が子どもを連れてくる日もあり、職員にも心の余裕がみられます。職員がそのような状態なので利用者も素になり日々暮らしの中で自然体と成れ、「笑いの絶えない我が家」の実現が叶っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地元の祭り等の行事に参加している。一部の方々には理解が得られず拒否されている。	近隣のスーパーマーケットに週1回ほど買い出しにでており、利用者も一緒にゆくこともあります。地域の夏祭りでは綿あめを買ったり、立ち寄ってくださる子ども神輿にご祝儀も渡しており、また、離設の利用者の保護や通報では協力くださる近所の人もいます。	子ども神輿の子どもたちには菓子やジュースなどを利用者の手から渡せたら、なお良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣近所の一部の人の中に、協力者が徐々に出来つつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催をしている。	運営推進会議は隔月開催ができています。行政、地域、家族の参加はなく、職員のみとなっていることは大きな課題です。それでも議事録も毎回とり、真摯に取り組んでいます。	市役所、地域包括支援センターへ開催案内及び出欠の返信票をFAXすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	来ていないが、電話等では、相談している。	生活保護者もいることから静岡市生活支援課の窓口には介護保険課よりも出向いていて、生活支援課の職員も定期面談に訪れてくださり、連携を保っています。集団指導には法人代表者が毎年出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングにて意見交換を行い、身体拘束をしないケアの実践に向けて再確認している。 利用者の体のアザに対してもいつ出来た物か、なぜ出来たのか記録や申し送りで情報を共有し気を付けている。	本年の法改正に伴い、マニュアル・指針を整備し『身体的拘束適正化検討委員会』を設置、年4回の委員会開催等を終えています。現在3要件の対象者が2名おり、家族の同意書とともに是正に向けた検討も重ね、委員会にも議題にあげています。	法改正に係る書面は、あらためて整備のうえ、ファイル化することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約時や解約時には、契約書を読んで頂き、わからない事があれば説明を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種外部研修の案内をし、積極的な参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また改定の際に重要事項の説明を行い了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等に対し、運営推進会議への出席を促してはいるが、積極的な参加は得られていないため、面会時等の個別対応にて、利用者や家族等の意見を取り入れている。	生活保護者が半数、家族が疎遠な人を含めると15名程に上っています。主体的に面会に訪れてくださるのは2、3組のため、大半の家族とは電話でコミュニケーションをとっています。現状家族からの要望も特に届いていません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度であるが、職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	職員会議は月1度実施されています。管理者が現場にでていることから情報交換は毎日の業務を通じて密にとれています。職員は利用者への観察も細かく、「こうしたほうが」「ああしたほうが」といった意見は直接管理者に入っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金等と合わせて、会社からの昇給を各職員の実績等を踏まえて、勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に数回、介護技術の向上に向けての勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に駿河区のグループホームの人達の交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの雰囲気に馴染めるように、レクリエーションを行うなど楽しく過ごせる環境づくりに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時など、利用者の生活の変化に応じたサービスの導入について、家族と話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで余り経験したことのないサービス等も入れて、話しあっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを重点に話し合いを通じてお互いに理解し合える関係を築く努力がされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者へ家族の面会時に、職員が話の中にとけ込めるように、常に家族、友人等が面会に来た時には、声かけするように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には、今までお付き合いをしていた親戚知人の方との交流が今まで通りできるように、お願いしている。	専門医の受診は家族にお願いしており、帰りに馴染みの珈琲ショップに家族とともに寄って帰ってくる人がいたり、化粧を続ける人もいて、また喫煙を継続する人は1日5本と決め防火対策もあって事務所で出し入れを管理しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各居室には、利用者が孤立しないようテレビは置かず、常にリビング等で楽しく過ごせるように心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞いなど、連絡は心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの習慣や好み、暮らしぶりなど、今後の要望などを聞き取り、職員間で情報を共有している。	「どんな生活をしたい」と尋ねてはいても明瞭な回答は得られず、「何食べたい」には「カレーうどん」といった庶民的なものばかりで、日常の食事提供と変わらなく、手ごたえがありません。それでも、職員の立居振舞いには気持ちに沿いたい様子が見られ、安心感が湧きます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、暮らして家庭に訪問し、状況の確認、デイサービス等を利用してる人などには、その場所での利用時の状況など、聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の観察や職員間の意見交換の他に、毎日の介護記録からその人の一日の過ごし方・心身状態・有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、アセスメントを基に本人・家族・職員の話や介護記録を活用して、個別に具体的な介護計画を作成している。本人や家族の要望も把握し、それが反映されるように計画を策定している。	1階は管理者が計画作成担当者となり、2階は介護支援専門員が計画作成担当者として配置され、双方ともに現場に入っていることから職員の気づきは随時伝えられています。「困ってないよおー」と利用者本人の言葉がそのまま記載された介護計画書を視認しました。	署名のもらい方など介護計画書の適切な作成の仕方について改めて振り返りつつ、向上させることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を毎日つけ、利用者一人ひとりに行ったケアやその時の様子を職員誰もが分かるようにし、問題点が見つければ今後の対応を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が体調が悪くなった時等は、いつものケアを変更し、安静にし回復できるようなケアを行っている。通院日に家族が都合が悪い時等は、職員が通院介助を代行する等、柔軟に支援やサービスを行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役所、家族等と連携をとりながら、一人ひとりに必要な支援を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回以上の医師の往診にて、大体の利用者及び家族は納得し、職員が医師に本人や家族の希望を伝え、医療や指導を受けている。納得されていなかったり専門が違う場合は、家族が個々で他の病院に受診に行かれる。	週1回訪問診療をおこなう協力医に全員が変更しています。診療日にはその日の勤務者が立ち合い、結果は介護記録に残して情報共有しています。透析は医院が送迎くださいますが、他の専門医は家族がおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師も同行して来るので、職員が情報や気づきを伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族や病院関係者に対し、薬の事や施設での様子等を伝えている。退院が決まった時には、電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族から方針を聞けるようであれば聞き取り、まだ決まっていなかったら、その時になってから今後の方針について話し合い、家族や医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「看取りをおこなう事業所である」と伝えていますが、看取り指針などの書面の備えは遅れています。死と向き合うことが嫌だとか不安だという気持ちが全くないわけではないものの精神的に負担だという職員はなく、看取りは本年も1名取り組んでいます。	看取り指針を整備して備えることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないが、事務所に緊急時対応マニュアルがあり、いつでも閲覧できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に実施している。	6月、11月に年2回、消火器の取り扱いと非難訓練を中心に法定訓練をおこなっています。食事が手作りなことからローリングストックが2、3日分ありますが、飲料水の備蓄はありません。	夜間想定と通報訓練の実施及び飲料水(井戸水の復活への検討も含み)の備えがあることを期待します。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者のいままでの暮らし方、生き方を尊重しながら、尊厳に配慮し、温かみのある声かけや、接し方をしている。トイレや入浴介助等に際しては、羞恥心に 配慮した関わりを心掛けている。	食事介助をしながらも「春の甲子園はじまったねえ」「田舎は〇〇だったね」と本人の興味が湧く話材を投げかけ、「なるべく楽しく食事を」と努めている様子もあり、どの職員も介助や作業をしつつも小さな変化に気づいて声をかけ、視野を広くもった言動が見られます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝起きて、利用者の状態をみて、今日してみたい事などを聞きとり、本人の思いや希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日様子で決めているが、生活のリズムと合わせて、押し付けにならないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者には、毎日好きな服を選んで頂いている。また、訪問理容を利用し、利用者の好みの髪型になるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める時には、利用者の希望を取り入れるようにしている。簡単な下ごしらえや食器洗い、食器拭きなど、楽しくお手伝いができるよう支援している。	職員の手作り料理が毎食提供され簡単な下ごしらえや食器拭きは利用者も手伝っています。お誕生日会にはケーキが、また年の瀬はお寿司とするなど、お楽しみもあります。刻みやミキサーで形がわからない場合も「〇〇ですよ」と説明する様子を視認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の開始時間は決まっているが、摂取時間は、ゆったりと出来るように時間を決めずに、十分に食事の量と、水分が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。毎食後必ず声をかけ、支援、対応している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、リハパン等を使用している利用者にも、利用者ごとの排尿時間の間隔を見つけ出して、なるべくパットではなくトイレで排泄できるよう支援している。	立位がとれない人はオムツとなりますが、なんとか座ることができればリハパンで「日中はトイレ」を慣行しています。便秘には繊維質の多い野菜を刻んで多めに食卓にのせ、水分摂取を増やすなどして、それでも無理なら弱めの便秘薬や漢方を用いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者各自の便秘対策は、薬を利用する前に、食べ物、飲み物の工夫をしたり、体操などを取り入れて、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望もありますが、利用者にあったタイミングを見て対応している。	週2日を目安に、時には柚子などの変わり湯もおこない、拒否の人にはその原因を把握しての対応を検討しています。大半の拒否が「面倒くさい」が理由なので、これまでの関係からやや強めに誘いかけることもあります。結局湯船に浸ければ皆和んでくださっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの習慣に合わせているが、なるべく昼寝ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員がしているが、主治医と薬剤師と連携をとりながら、副作用等にいつも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、新聞紙でのゴミ箱作り等をして頂いている。また、簡単なトランプゲームに誘ったりすると、今まで興味をしめさなかった利用者も気軽に参加して頂ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩等、たとえ短時間でも外の空気に触れてもらえるようにしている。希望者には、カラオケの日を作って外出して、カラオケボックスに行ってもらったり、毎日のように畑に出かけられる利用者もいる。	カラオケボックスに通う人もいますが、ほとんどの人の外出は散歩が主で、2週間に1度程度は外気浴も兼ね周辺の景色を眺めながら散策しています。また近くにある代表者の畑で草むしりや水やりを愉しむ利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ほとんどの利用者は、所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者がいれば、電話、手紙はできるよう支援している。一部の利用者は、管理者経由で家族に利用者の気持ちを伝えて、家族から利用者に連絡を入れるようにして頂いてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を生けたり、なるべく自然環境の中で生活が出来るよう支援している。	トイレ(日勤担当)、床・手すり(遅番担当)、風呂場(早番担当)の掃除は1日の業務に組み込み、総じて清潔ですが、「掃除をすると決めていない箇所」には埃があります。	掃除箇所の洗い出しをおこない、掃除もれのないようにすることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂はテーブル、テレビが置かれ、テレビの前にはソファも置かれ利用者がいつでも横になれたり、リラックス出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、利用者の好みの物を自由に持ち込んで、落ち着いて過ごせるように支援している。	「いじる」「はがす」症状がある利用者の部屋は物品は何もありませんが、一方で孫や玄孫のいる人の居室には家族写真が壁に連なっています。大きなクローゼットが備わっているため、小さなものを収納する書簡箱や目覚まし時計などが持ち込まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分からない利用者には、扉に名前を書いたりトイレ表示をしたりして、自立出来るよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201546
法人名	MS5有限会社
事業所名	グループホーム スローライフ大谷 (2階)
所在地	静岡県静岡市駿河区大谷3-12-4
自己評価作成日	平成31年3月13日
評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosyoCd=2274201546-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駿河湾に近い立地である。 「笑いの絶えない楽しい我が家」を理念に掲げ、家庭的で温かいホーム作りを心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が子どもを連れてくる日もあり、職員にも心の余裕がみられます。職員がそのような状態なので利用者也素になって自然体と成り、「笑いの絶えない我が家」の実現が叶っています。食事介助をしながらも「春の甲子園はじまったねえ」「田舎は〇〇だったね」と本人の興味が湧く話を投げかけ、「なるべく楽しく食事を」と努めている様子も見られ、どの職員も介助や作業をしつつも小さな変化に気づいて声をかけ、場合によっては近くまでいって確認して安心の態勢です。5人の子を持つママも産休明けで勤務が再開しており、子どもに何かあったときは「いいよ、代わるから」と気安く替わってくれる同僚ばかりで、チームワークが抜群です。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑いの絶えない楽しい我が家を理念とし、地域密着をプラスしたいが、なかなか思惑どおりにはならない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地元の祭り等の行事に参加している。一部の方々には理解が得られず拒否されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣近所の一部の人の中に、協力者が徐々に出来つつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来ていないが、電話等では、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングにて意見交換を行い、身体拘束をしないケアの実践に向けて再確認している。 利用者の体のアザに対してもいつ出来た物か、なぜ出来たのか記録や申し送りで情報を共有し気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約時や解約時には、契約書を読んで頂き、わからない事があれば説明を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種外部研修の案内をし、積極的な参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、また改定の際に重要事項の説明を行い了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等に対し、運営推進会議への出席を促してはいるが、積極的な参加は得られていないため、面会時等の個別対応にて、利用者や家族等の意見を取り入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度であるが、職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金等と合わせて、会社からの昇給を各職員の実績等を踏まえて、勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に数回、介護技術の向上に向けての勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に駿河区のグループホームの人達の交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの雰囲気に馴染めるように、レクリエーションを行うなど楽しく過ごせる環境づくりに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時など、利用者の生活の変化に応じたサービスの導入について、家族と話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで余り経験したことのないサービス等も入れて、話しあっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを重点に話し合いを通じてお互いに理解し合える関係を築く努力がされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者へ家族の面会時に、職員が話の中にとけ込めるように、常に家族、友人等が面会に来た時には、声かけするように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には、今までお付き合いをしていた親戚知人の方との交流が今まで通りできるように、お願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各居室には、利用者が孤立しないようテレビは置かず、常にリビング等で楽しく過ごせるように心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞いなど、連絡は心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの習慣や好み、暮らしぶりなど、今後の要望などを聞き取り、職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、暮らして居る家庭に訪問し、状況の確認、デイサービス等を利用してる人などには、その場所での利用時の状況など、聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の観察や職員間の意見交換の他に、毎日の介護記録からその人の一日の過ごし方・心身状態・有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、アセスメントを基に本人・家族・職員の話や介護記録を活用して、個別に具体的な介護計画を作成している。本人や家族の要望も把握し、それが反映されるように計画を策定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を毎日つけ、利用者一人ひとりに行ったケアやその時の様子を職員誰もが分かるようにし、問題点が見つければ今後の対応を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が体調が悪くなった時等は、いつものケアを変更し、安静にし回復できるようなケアを行っている。通院日に家族が都合が悪い時等は、職員が通院介助を代行する等、柔軟に支援やサービスを行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役所、家族等と連携をとりながら、一人ひとりに必要な支援を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回以上の医師の往診にて、大体の利用者及び家族は納得し、職員が医師に本人や家族の希望を伝え、医療や指導を受けている。納得されていなかったり専門が違う場合は、家族が個々で他の病院に受診に行かれる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師も同行して来るので、職員が情報や気づきを伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族や病院関係者に対し、薬の事や施設での様子等を伝えている。退院が決まった時には、電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族から方針を聞けるようであれば聞き取り、まだ決まっていなかったら、その時になってから今後の方針について話し合い、家族や医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないが、事務所に緊急時対応マニュアルがあり、いつでも閲覧できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に参加している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者のいままでの暮らし方、生き方を尊重しながら、尊厳に配慮し、温かみのある声かけや、接し方をしている。トイレや入浴介助等に際しては、羞恥心に 配慮した関わりを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝起きて、利用者の状態をみて、今日してみたい事などを聞きとり、本人の思いや希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日様子で決めているが、生活のリズムと合わせて、押し付けにならないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者には、毎日好きな服を選んで頂いている。また、訪問理容を利用し、利用者の好みの髪型になるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める時には、利用者の希望を取り入れるようにしている。簡単な下ごしらえや食器洗い、食器拭きなど、楽しくお手伝いができるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の開始時間は決まっているが、摂取時間は、ゆったりと出来るように時間を決めずに、十分に食事の量と、水分が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。毎食後必ず声をかけ、支援、対応している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、リハパン等を使用している利用者にも、利用者ごとの排尿時間の間隔を見つけ出して、なるべくパットではなくトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者各自の便秘対策は、薬を利用する前に、食べ物、飲み物の工夫をしたり、体操などを取り入れて、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望もありますが、利用者にあったタイミングを見て対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの習慣に合わせているが、なるべく昼寝ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員がしているが、主治医と薬剤師と連携をとりながら、副作用等にいつも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、新聞紙でのゴミ箱作り等をして頂いている。また、簡単なトランプゲームに誘ったりすると、今まで興味をしめさなかった利用者也気軽に参加して頂ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等、たとえ短時間でも外の空気に触れてもらえるようにしている。希望者には、カラオケの日を作って外出して、カラオケボックスに行ってもらったり、毎日のように畑に出かけられる利用者もいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ほとんどの利用者は、所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者がいれば、電話、手紙はできるよう支援している。一部の利用者は、管理者経由で家族に利用者の気持ちを伝えて、家族から利用者に連絡を入れるようにして頂いてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を生けたり、なるべく自然環境の中で生活が出来るよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂はテーブル、テレビが置かれ、テレビの前にはソファも置かれ利用者がいつでも横になれたり、リラックス出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、利用者の好みの物を自由に持ち込んで、落ち着いて過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分からない利用者には、扉に名前を書いたりトイレ表示をしたりして、自立出来るよう支援している。		